

脳卒中センター・脳神経外科

スタッフ（令和3年4月現在）

センター長・部長 阪井田 博司
医師数 常勤 9名
非常勤 4名
(脳神経外科 常勤5名・非常勤3名)
(脳神経内科 常勤4名・非常勤1名)

診療科の特色・診療対象疾患

脳卒中センターは日本脳卒中学会が認定する「一次脳卒中センター」として、桑名・北勢地区を中心とした急性脳血管障害の患者さんを迅速に受け入れ、最新治療を行うために設備・スタッフ・院内体制を充実させ活動しています。特に近年進歩が著しい脳血管内治療は、三重県内では随一の治療件数を誇っています。

また脳神経外科としては脳腫瘍・頭部外傷・脊椎脊髄疾患など様々な病態に対して、先進的な技術を駆使しながら外科的治療を行っています。

脳卒中センターとして取り分け重要な任務は、超急性期脳梗塞や出血性脳血管障害に対してより迅速に適切な治療を行える体制整備です。脳梗塞に対してrt-PA静注療法や機械的血栓除去術を迅速に行うための市民への啓蒙活動・救急隊と「脳卒中ホットライン」を通じた連携強化・院内のスタッフの教育や診療体制の整備など様々な取り組みを行っています。外科的治療が必要な脳出血に対して、開頭術の他に4K神経内視鏡を導入し低侵襲な血腫除去術を取り入れています。クモ膜下出血は血管内治療による脳動脈瘤コイル塞栓術を第一選択に対応しています。

◆◆市民公開講座◆◆

脳卒中の啓蒙活動として開催した「第1回脳卒中センター市民公開講座」



(平成31年1月19日 NTN シティホール)

◆◆Strokeカンファレンス◆◆

院内体制整備やスタッフ教育のために開始した「Strokeカンファレンス」



(毎月第3月曜院内講堂で全職種が自由参加)

◆◆新規に導入した手術器機◆◆

三重県で初めての3Dモニター搭載の手術用顕微鏡やナビゲーションシステム、4Kの高解像度神経内視鏡を用いた手術



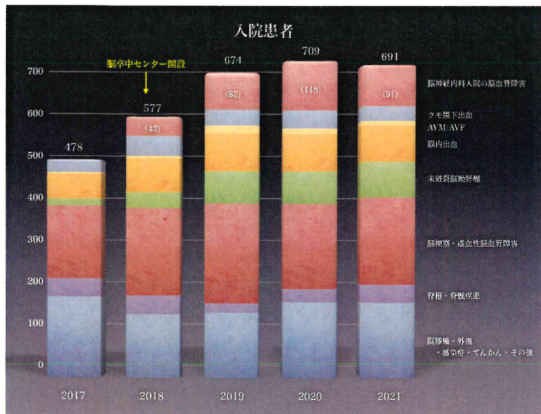
◆◆血管造影検査と血管内治療◆◆

県内随一の治療件数の脳神経血管内治療



年度回顧・活動記録

平成 30 年（2018 年）5 月に新病院が開院後、救急隊や関連施設との連携が徐々に強化され、市民への啓蒙活動や院内体制の整備も進み、脳卒中センターおよび脳神経外科の入院患者数・外科的治療件数は、新型コロナの影響を大きく受け始めた令和 2 年（2020 年）まで年々増加していました。しかし新型コロナを警戒して社会活動が制限されると脳卒中の発生頻度が減少し、令和 3 年（2021 年）は入院患者数・外科的治療件数とも初めて前年に比べ減少しました。



(2020 年 12 月～2021 年 11 月集計)

◆◆入院実績◆◆ (カッコ内は神経内科入院)

入院患者数	691 (91)
クモ膜下出血	34 (1)
脳出血	80 (0)
虚血性脳血管障害	282 (89)
未破裂脳動脈瘤	78 (0)

血管奇形・動静脈瘻	9 (0)
脊椎・脊髄疾患	41 (1)
脳腫瘍	40 (0)

◆◆外科的治療・rt-PA 静注療法◆◆

外科的治療総数	305
直達手術	187
破裂・未破裂脳動脈瘤	11
脳出血	8
内頸動脈狭窄・解離	4
脳腫瘍	19
血管内治療	118
破裂脳動脈瘤	18
未破裂脳動脈瘤	16
頸動脈狭窄・解離	18
血栓回収療法	28
rt-PA 静注療法	19

数字には表れない新型コロナの大きな影響として、令和 2 年（2020 年）4 月以後の「市民公開講座」の中止、2020 年から令和 3 年（2021 年）3 月までの「Stroke カンファレンス」の中断による、市民への啓蒙活動と病院スタッフや救急隊の教育活動の制限が挙げられます。学会活動も自粛傾向が強くなり、診療実績以上に新型コロナが脳卒中医療に悪影響を及ぼしていました。

今後の展望

新型コロナの対応と蔓延防止のため一時的に急性期脳卒中診療まで制限せざるを得ない状況に陥りかけましたが、その危機的状況を何とか乗り越えてきました。今後も感染症対策と平行して、この地域の脳卒中医療の改革を推進しながら啓蒙・教育活動を再開していく予定です。